

2025（令和7）年度
「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン
助成活動報告



2026（令和8）年5月1日
NPO法人北海道遺産協議会

2025(令和7)年度「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン 助成先一覧(計3件)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	静内二十間道路の桜並木	新ひだか町	新ひだか町	静内二十間道路桜並木への桜の植樹活動	400,000
2	霧多布湿原	浜中町	特定非営利活動法人 霧多布湿原ナショナルトラスト	霧多布湿原における野鳥保全活動 1. 霧多布湿原・琵琶瀬川におけるアカアシシギ利用状況調査手法の検討 2. 霧多布湿原における天然記念物指定鳥類の観察会	224,000
3	空知の炭鉱関連施設と生活文化	三笠市	三笠ジオパーク推進協議会	野外博物館階段補修	176,000

1. 静内二十間道路桜並木への桜の植樹活動

- 実施主体：新ひだか町
- 実施団体URL：<http://www.shinhidaka-hokkaido.jp/>（新ひだか町HP）
- 助成額：400,000円

ー活動内容ー

- 「日本の道百選」や「さくら名所100選」に選定されている北海道遺産「二十間道路桜並木」は、後世へ引き継ぐべき重要な地域資産であるが、老木化や気象災害、害虫被害が深刻化しているため、現在は樹勢回復事業を推進している。本事業では助成金を活用してエゾヤマザクラの植樹を実施し、令和元年度からの累計植樹数は38本（今年度6本）となった。あわせて、年2回のボランティアによる保全活動時の案内や並木の紹介において、北海道遺産である旨を明記することで、普及啓発と遺産の保全に向けた意識醸成に努めた。



遺産の名称:

「静内二十間道路の桜並木」
(新ひだか町)



二十間道路は、和種馬の大型改良のために1872（明治5）年に黒田清隆が進言し、静内町（現・新ひだか町）から新冠町にまたがる地域に開設した御料牧場のための行啓道路。龍雲閣まで直線で約7km、幅20間（約36m）にわたって両側に2,000本をこえるエゾヤマザクラなどの並木が続く。雄大な日高山脈を背景とした景観は我が国で類を見ないスケールとして知られる。

2. 霧多布湿原における野鳥保全活動

- 実施主体：特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト
- 実施団体URL：<https://www.kiritappu.or.jp/>
(特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラストHP)
- 助成額：224,000円

ー活動内容ー

①霧多布湿原・琵琶瀬川におけるアカアシシギ利用状況調査手法の検討

7月に、湿原内を流れる琵琶瀬川においてカヌーセンサス調査を2回実施した。国内の絶滅危惧種に指定されている希少種の利用状況を把握し、今後の保全活動に資するデータを収集した。

②霧多布湿原における天然記念物指定鳥類の観察会

冬の霧多布湿原において、水鳥の観察を目的とした観察会を計4回開催した。参加者は道内および本州から延べ21名に上った。国指定天然記念物のオオワシやオオハクチョウなどの観察を通じ、本州では見ることのできない豊かな生態系を提示した。観察会では、地元ガイドが湿原の環境や越冬地としての特性を解説するとともに、北海道遺産の選定内容についても説明を行った。野鳥というテーマを通じて、霧多布湿原が北海道の中でも極めて貴重な環境であることを参加者に周知し、地域への理解を深める機会とした。



遺産の名称：
「霧多布湿原」
(浜中町)



湿原景観を構成するすべての要素が一望できる学術的にも貴重な湿原。一部は「霧多布湿原泥炭地形形成植物群落」として、1922（大正11）年に天然記念物に指定され、数百種の高山植物が自生している。春から秋にかけて咲く花々の美しさを楽しみ、タンチョウや白鳥など百種の野鳥も観察できる。地域では湿原保全のナショナルトラスト活動が積極的に展開されている。

3. 野外博物館階段補修

- 実施主体：三笠ジオパーク推進協議会
- 実施団体URL：<https://www.city.mikasa.hokkaido.jp/geopark/>
(三笠ジオパーク推進協議会HP)
- 助成額：176,000円

ー活動内容ー

- 三笠市の野外博物館は、北海道遺産「空知の炭鉱関連施設と生活文化」である旧幾春別炭鉱錦立坑櫓や旧錦坑坑口を擁し、国内外から教育旅行やジオツアーの参加者が多数訪れる重要な拠点であるが、これら施設へ通じる木製の丸太階段が雨水による腐朽で劣化し、見学者の安全確保が課題となっていた。
- 今回助成金を活用して劣化した丸太の交換を実施し、階段の昇降が容易になったことで、貴重な遺産を安全に体感できる環境が整った。本事業の実施については三笠市ホームページに掲載し、地域の歴史的資産を次代へ引き継ぐための支援の仕組みについて広く周知を図った。

▶補修前



▶補修後



遺産の名称：

「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。